

動物実験施設

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	8 人	
合計	13 人	

2 教員の異動状況

- 1) 加藤 秀樹（准教授）（H10.12.1～19.3.31 助教授； 19.4.1～現職）
- 2) 高林 秀次（助教）（H15.11.1～H19.3.31 助手； 19.4.1～現職）
- 3) 記野 秀人（助教）（S53.6.16～H19.3.31 助手； 19.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.95	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- (1) Takabayashi S, Katoh H. Sex identification using the ZFX and ZFY genes in common marmosets (*Callithrix jacchus*). *Exp Anim.* 60: 417-420, 2011.

インパクトファクターの小計 [0.950]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- (1) 記野秀人・柘植常次郎・早川慎司：特定波長の光照射による寄生虫卵の新識別方法の検討.
Clinical Parasitology 22(1): 87-89, 2011.

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- (1) 加藤秀樹. マウス・ラット疾患モデル活用ハンドブック (秋山徹・奥山隆平・河府和義編)、
羊土社、2011.

4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(100 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(126 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

加藤秀樹 (分担者). 新学術領域研究がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動、100 万円
(継続) 代表者東京大学医科学研究所中村祐輔

(5) 受託研究または共同研究

記野秀人 (代表者). 特定波長の可視光及び紫外線照射による寄生虫 (卵) のデジタル
画像での検出研究. 株式会社エヌ・シー・ディ. 平成 23 年 3 月 15 日～平成 25 年 1
月 31 日、126 万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件

(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	1 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

ポスター発表

Katoh H, Takabayashi S and Itoh T. Family analysis and electrophoretic characterization of TRF (transferrin) in common marmoset. 3rd East Mediterranean ICLAS Symposium & XV. ICLAS General Assembly. June, 2011, Istanbul (Turkey) .

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

記野秀人. 第 81 回日本寄生虫学会大会, 2012 年 3 月, 西宮市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

加藤秀樹. 社団法人日本実験動物学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	1 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌の編集

加藤秀樹 : Experimental Animals (社団法人日本実験動物学会学会誌)、編集委員、PubMed/Medline 登録有、インパクトファクター (0.950)

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

加藤秀樹、1 回、Experimental Animals (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	3 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

記野秀人. Development of a Technique to Identify Helminth Eggs Based on their Unique Fluorescence Following Irradiation of Light with a Particular Wavelength.

相手機関 : Department of Parasitology, College of Public Health, University of Philippines Manila

(Philippines).

研究期間：Nov. 2011 ～.

様式：株式会社エヌ・シー・ディと 3 者の共同研究であり、2011 年度は機器をフィリピン大学に持ち込みデータ収集を行った。

(2) 国内共同研究

- 1) 加藤秀樹. 実験動物のクローズドコロニーに関する遺伝学的研究（公益財団法人実験動物中央研究所 野村達次）.
- 2) 加藤秀樹. クローズドコロニーCF1 マウス系統に内在する変異遺伝子の発掘と系統変化（独立行政法人放射線医学総合研究所 西川哲、上野渉）
- 3) 加藤秀樹. コモンマーモセットの遺伝学的研究（財団法人実験動物中央研究所伊藤豊志雄、野村達次）

10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	1 件

1. 記野秀人. 特定波長の可視光及び紫外線照射による寄生虫（卵）のデジタル画像での検出研究. 株式会社エヌ・シー・ディ. 平成 23 年 3 月 15 日～平成 25 年 1 月 31 日.

11 受賞

(3) 国内での授賞

高林秀次. 社団法人日本実験動物学会奨励賞、平成 23 年 5 月.

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

(1) コモンマーモセットの人工授精法の開発（高林秀次）

コモンマーモセットのメスの雌性ホルモンを測定して、性周期を把握し、排卵予想日に、オスから採取した精子を経膣より注入する経膣人工授精法を開発した。

(2) 実験動物のクローズドコロニーに関する遺伝学的研究（高林秀次）

CF1 クローズドコロニーから白斑表現型を示す新規突然変異マウスを発見し、その原因遺伝子が Kit 遺伝子であることを遺伝子マッピングおよびシーケンスより明らかにした。

(3) コモンマーモセットの遺伝学的研究（加藤秀樹）

コモンマーモセットの赤血球抗原をヒト血液型判定用抗体を用いて研究した結果、抗-A 抗体で陽性を示す個体が存在することがわかった。現在、その抗原の遺伝性について研究を行っている。

(4) 秋田県子吉川水系のアユおよびウグイに寄生するメタゴニムス属吸虫の形態学的変異（記野秀人）

秋田県由利本荘市（旧島海村）の子吉川水系では 1970 年代から、いわゆる横川吸虫の寄生率が高いことが知られていた。この地域の成虫標本を調べてみると、横川吸虫とは著しく異なる形態を示していた。住民の感染は通常のアユよりもウグイに由来することが多いとされ、宮田吸虫による感染であることが示唆された。しかし、成虫の形態は宮田吸虫とも異なり、この地域で独自の分化が

進んでいる可能性を示唆している。そこでこの地域のアユおよびウグイを入手して実験感染にて成虫を採取したところ、形態には大きな差は見られなかったが、ハムスターへの感染性において著しい違いが見られた。

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

下記の研究課題については継続して実施している。成果については12を参照のこと。

- (1)加藤秀樹. 実験動物のクローズドコロニーに関する遺伝学的研究 (前年度より継続)
- (2)加藤秀樹. コモンマーモセットの遺伝学的研究 (前年度より継続)